

新宮山彦ぐるーぷ第1913回

第58回・丁酉歳十二支会例会

「金鷄山(古城山)Ⅱ△407. 4m」協賛行事

◇実施日：2017年01月15日(日)～16日(月)

◇参加者：山上皓一郎、川島 功、前田 正、大江加予子・徳子、

田中稔昭、椎木 堯(以上会員)。山上智英、森口一郎・
緑、鶴岡 栄、小川千寿(以上ビジター)。 12名。

01月15日(日) 曇り時々晴・一時雪

懇親会場の長良川温泉「十八楼」へは、新宮組(8名)・田中氏は、自家用車、それ以外の方はJRを利用。

気象庁から前日より大寒波の南下で、岐阜・愛知・三重県の平野部にも大雪警報が出ている。朝には、新宮地区にもうつすら積雪していて、めったにない積雪でビックリすると共に、これから岐阜迄の走行が心細く心配になる。

山上車・大江車(川島・前田同乗)は、山路・サークルKで合流し、阿田和ピネで古稀慶祝者の真砂民雄氏(母の介護で欠席)から差入れして下さる蜜柑箱(Cyng)を託る。

心配した尾鷲、紀伊長島周辺は、新宮地区より積雪が無く安堵する。奥伊勢PAで休憩して、道路情報を確認すると、名古屋高速道と東名阪道(伊賀IC～関IC)が通行止めになっている。

桑名東ICから降りて一般国道を走行するしかないと思ったが、亀山PAで道路パトロール員に確認すると名古屋西・清洲東IC迄は、現在走行可能である事を確認出来た。

鈴鹿IC辺りから雪がちらつき、路肩の雪が急に多くなり、路面はシャーベット状になり、速度規制・時速50kmとなる。

スリップ車も散見され渋滞するが、桑名東手前から解消する。

田中氏から名古屋西を過ぎた時点で、宿泊先近くのコメダ珈琲店に着き、店内で待機すると連絡がある。



積雪の亀山PA



四日市辺りの高速道の積雪状況



清洲東IC迄走行出来たので、約1km先の清洲JCTに行けるのではと走行するが、閉鎖されていて大口ICで降りる。

清洲東迄戻り国道22号線を北上する。通行量も多く圧雪され、路面には殆んど積雪は無い。国道156号線に入り、長良川手前で県道287号線へ左折し金華山トンネルを抜け、ロープウェイ乗場前に立寄ったが、田中氏の待つコメダ珈琲店が見つからず宿泊する「十八楼」駐車場に12時半頃に駐車する。

駐車場は、約15cmの積雪でホテル従業員が除雪中で、ゴム長靴に履き替える。田中氏に駐車場に来る様に伝えると、ロープウェイ乗場で待つとの事。又、椎木氏から新幹線が遅れているとの連絡がある。

「十八楼」のフロントに行くと呼べ会長が既に待機されていて、13時から縄田さんが岐阜城を案内して下さるとの事。

バーミヤン(中国料理店)で食事するが、登山靴に履き替えに駐車場に戻った前田氏が食事に来ない。

電話するとロープウェイ乗場で田中氏と合流したとの事、田中氏は食事済だと思いき前田氏に食事抜きで、二人で金華山へ登るように伝えたが、待っていた様で食事を終えた大江さんと一緒に4人で岐阜城を見学。

縄田さんの案内で池田さんと川島・山上親子、森口夫妻の7人で金華山山頂(△328.9m)、岐阜城(70才以上無料)を見学し15時に「十八楼」に戻る。



金華山と岐阜城

雪化粧した岐阜城

金華山・二等三角点

受付には、車で来られた山口G(伊藤・林夫妻・金光)と新幹線の椎木氏、大分の加藤氏が受付されており、お互い寒波の影響を受けたが、無事到着と久方ぶり再会の挨拶をする。

川島は、岐阜Gの方と懇親会場の掲示物等の準備作業を手伝う。懇親会前の講演会は、遅れる人が無く57名が参集し、17時半から郷土史家・西村覺良先生の演題「古城山の歴史」で、金鶏山の由来は、朝に鶏が鳴き登ると、金の卵が在ったことから金鶏山になったそうだ。又、美濃国守護の土岐氏の功績と斉藤道三に滅ぼされる迄の経緯を聴講した。(添付資料参照)

第58回・丁酉歳十二支会例会の懇親会は、18時20分からの開催となり、冒頭に地元歓迎挨拶が早田道治さんからあり、例会担当は何回あるが、岐阜での干支の山の開催は初めてとのこと。黙祷は、会員では物故者の該当者は無いが、木村繁元会員が逝去されて、これまでの物故者と併せて冥福を祈念して黙祷。今年の慶祝者は、古稀；池田真由美・森 栄司・高木基揚、真砂民雄(欠席)。喜寿・伊藤禎洋・野原龍夫。傘寿・堀井昌子(欠席)。

米寿；斉藤惇生・山上皓一郎。計9名で出席者7名が登壇。



西村覺良先生の講演聴講

早田さんの歓迎挨拶

堀会長より丁酉の文字入りチョコレートと清水寺貫主・森清範揮毫の色紙「金鶏山」贈呈のハプニング(従弟の森栄司氏が依頼)があり記念撮影。登頂出来ない慶祝者・斉藤惇生氏に慶祝金贈呈。



慶祝者と会長の記念撮影

米寿慶祝者と色紙

会旗引継ぎ式

会旗引継ぎは、林和子・野々部節子両名から堀会長へ、会長から古稀；森 栄司・池田真由美・高木基揚氏へ引継ぎがある。差入れは(敬称略)、清酒2升；山口G・真砂民雄・川島 功。清酒1升；玉岡憲明・堀 義博・前田 正・山上皓一郎・京都G。

大分G・島 太世十千代間節子・椎木 堯。清酒4号瓶・山田信明・山縣 忍。蜜柑；山上皓一郎(90kg)・真砂民雄(75kg)。豆菓子；鶴岡 栄十小川千寿。版画；リチャード・スタイナー。林世話人から事務局の連絡事項が連絡され、河村 清さんの「乾杯」の音頭発声で開宴。



河村清さん乾杯の発声！

開宴後の食事

新人紹介は山田信明、新人ビジター(紹介者)は、山上智英(山上)・棚橋慶尚(堀)・宮原照昭+桜井依里(加藤)の計5名の自己紹介。



新人と新ビジターの自己紹介

腹ごしらえが一段落し、鶴岡さんの民謡踊り、岡本さんの詩吟

吟詠、川島の山形大黒舞の唄があり、おひねりが飛び盛り上がる。



鶴岡さんの踊り



詩吟吟詠



日立トンコ節

その後、林さん十八番の日立トンコ節に次いで、多くの人が舞台に上がり、歌集による合唱となり一層懇親会が盛り上がる。宴たけなわであるが21時前に、渡邊一光氏の一本締め中締めで一次会の懇親会が終了。



歌集による合唱



渡邊氏の中締め



二次会は、カラオケルームで22時半過ぎまで、三次会は世話人の部屋で24時前まで飲酒・歓談された。



カラオケルームの二次会

行動タイム

新宮 7:20 → 阿田和・ユネ 7:50 → 8:10 大泊 IC → 8:55 紀勢大内山 IC → 奥伊勢 PA → 亀戸 PA → 御在所 SA → 11:00 名古屋西 → 11:10 平田 IC → R-22 号線 → R-156 号線 → 県道 287 号線 → 12:25 長良川温泉 「十八楼」 → 昼食 → 13:35 金華山ロープウェイ山麓駅 13:45 → 金華山(Ⅱ△328.9m) → 岐阜城 → 14:45 山頂駅 → 15:00 「十八楼」。

17:25 講演会 18:15 → 18:20 懇親会 20:55 → 21:10 二次会 22:45 → 二次会 23:50 → 就寝。

01月16日(月)

曇り時々晴れ間と小雪のち晴

遅くまで飲んだが、皆5時半に起きて朝風呂へ。7時から朝食を済ませ、8時半前にバスと自家用車11台が連なり「十八楼」を出発。北方の山県市の古城山に近づく、晴間から曇り空になり小雪模様になる。

大桑城登山口の標識に導かれ、老人ホーム「椿野苑」前を通り南麓公園駐車場へ。積雪約15cmで先行された岐阜Gの方が除雪とぜんざい接待用テントを張る準備をされている、本当にご苦労様です。

東側峠登山コースは、峠からの登山道は積雪が多く難しいとのことから、全員(33名)南麓コース(標高85m)から登ることになる。

スパッツを着用し、十二支会旗を持つ森氏を先導に隊列を作り、はじめに林道分岐で左側林道へと進む。



会旗先導で出発



はじめに林道分岐



林道からの登山口

林道から古城山登山道標識地点から積雪約20〜25cmの山裾登山道へと登る。急な斜面ではジグザグな登山道となる。この頃には、山県市の鳥インフルエンザに罹った鶏処分の取材ヘリの音が絶えない。



平坦な登山道で休憩



岩門(番所跡)



主尾根に登り捲く

先頭は、積雪の重みで枝が垂れ下がり、雪を払い落としながら進んでおられる。伝岩門(番所跡)からジグザグに主尾根に登り尾根を捲いて下ると、程なく国盗り物語の霧井戸分岐である。馬場・左下の曲輪跡を過ぎると、峠からの分岐。此処から急斜面でトラロープが敷設されている。登ると平坦になり臺所(台所)跡があり、直ぐに土岐氏の石碑と祠前の天主臺広場に着く。



霧井戸分岐



大桑城天守閣が見える



会旗先導者が山頂到着

右上に高さ約5mのミニチュヤ大桑城天守閣があり、左横を通り祠上に出ると金鶏山(古城山)点名;大桑城山」山頂に11時08分に到着。二等三角点を囲み万歳三唱!



山頂前落雪で雪まみれ



山頂に到着



狭い山頂に集合

慶祝者に慶祝金が渡され、林和子さんから日本海、大江徳子ちゃんから太平洋が祝杯に注がれ、飲干し各自毎に記念撮影。



万歳三唱!



祝杯と日本海・太平洋



米寿慶祝者の山上さん

慶祝者の記念撮影



登頂者全員の記念撮影



新宮Gの記念撮影



慶祝者全員及び登頂者全員の記念撮影を済ませ、山頂は細長く狭いので祠前に下り乾杯をする。

積雪も多く在り、下山してテント内で食事をする事になり、ヤッホーの掛け声をして11時35分に下山する。下山する頃には、曇時々青空の晴れ間が見られる天候に回復する。

踏み固められた雪道で滑らない様に、気を付けて、休憩無し

で下山した。



祠前の天主臺広場で乾杯！ 下山前のヤッホー 下山時の横断幕で

林道の「さらば また逢う日まで」横断幕に出迎えられ、駐車場のぜんざい接待テントに12時25分に到着。最後尾の山上さん達も元気に12時45分に下山された。

岐阜の女性会員等は、山頂に登らず接待の準備をして下さり、テント内の椅子に座り昼食とぜんざいの接待を受ける。

今回の例会実施の裏方として準備並びに接待をして下さった岐阜Gの皆様へ感謝と御礼を申し上げます。



最終下山者

ぜんざい接待用テント

ぜんざいの接待

帰路は、山上車は、森口夫妻が岐阜に赴任していた家辺りに立寄ることから別行動になる。

積雪規制も殆んど解除され、美濃ICから東海北陸道、名古屋高速道を経て名古屋西から東名阪道に入り、御在所PAで休憩して、真砂さん宅に立寄り18時に帰新した。

山上さん達は、19時半に無事帰新された。

行動タイム

「十八楼」8:25→9:20 登山口駐車場 9:30→9:45 林道から山道登山口→10:35 番所跡→10:55 霧井戸分岐→11:08 金鶏山山頂 11:25 ↓石碑・祠前の天主臺広場 11:35 ↓12:25 登山口駐車場(昼食・ぜんざい接待) 13:30→13:40 美濃IC→14:08 一宮IC→14:20 名古屋西JCT→御在所SA(休憩)→16:10 紀勢大内山IC→17:00 大泊IC→真砂宅・前田宅・川島宅→18:00 新宮。(走行距離:540km)。

会費:1人6,000円/人(車代+土産代)

(写真:大江・山上・川島。記 川島)

